

骨の「七」不思議

私は科学館で生物担当の学芸員ですが、生き物のどこに関心があるのかと問われたら、まっ先に「形のおもしろさ」と答えます。人間とはまるで違う形をしていても、どこかに生物としての共通性を見ることができ、進化の不思議を感じます。

今回のテーマは、科学館の入口近くで皆さんをお迎えするクジラの化石について。南米ペルーでおよそ800万年前の地層から発見されたヒゲクジラの一種です。クジラは形も大きさも人間とはずいぶん異なりますが、同じほ乳類の仲間です。ほ乳類とは、子どもを母乳で育てることを最大の特徴とする動物のグループです。あまり想像がつかないかもしれませんが、クジラも



学芸員 相澤 毅

生命の海科学館
☎ 66・1717

おっぱいを飲むのです。ヒトとクジラの共通部分は、骨格で比較すると明らかです。骨だけで見れば、もとは同じルーツの仲間だとわかります。私のおすすめ観察ポイントは首の骨、ほ乳類の首の骨の数は基本的に7つです。例えばキリンも首の骨は7つですが、これは骨の一つひとつが長いのです。ヒトもクジラもキリンもネコもネズミも、首の骨は7つです。

クジラの首の骨はどこにあるか、ちよつとわかりにくいですが、大きな頭のうしろに板のような骨がちゃんと7枚並んでいます。これだけ板状にくっついていると、自由に首を動かすことはできません。クジラは進化の過程でより早く泳ぐために、首がぶれないよう骨が短くなつたと考えられています。水中生活への見事な適応です。

ほ乳類や鳥類は、首の骨の数には乳類ほどの統一性はありません。ほ乳類に限って、なぜ首の骨は7つなのでしょう。7という数に合理的な理由があるのか……これは、骨の「七」不思議として未だに解明されていません。



科学館に展示中のヒゲクジラの化石。大きな頭のうしろに首の骨があります。

数字で見る がまごおり

～繊維ロープ～

観光商工課 ☎ 66・1119

綱・ロープというと、皆さんは何を思い出しますか。綱引きの綱、公園のロープの遊具などかもしれませんが。実はそれらの多くが、この蒲郡で作られているんですよ。

歴史

形原町の漁師の息子に生まれた小島喜八さんが、巡査の捕り縄を明治初年に製造したのが、この地のロープ製造の興りといわれています。明治7年には、後去齒車式（あきざりはくろまじき）燃糸機（ねんしき）を考案し、以来、当地が繊維ロープの一大産地と発展する基礎を築きました。

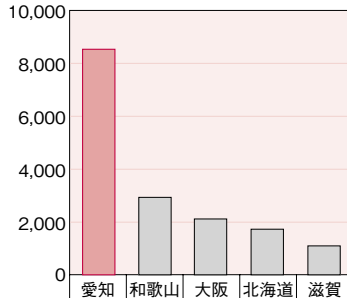
シエア

平成22年における愛知県（形原町を中心とする地域）のロープ出荷額は、85億9700万円と、全国トップの約37%のシェアを占めています。

また、日本繊維ロープ工業組合

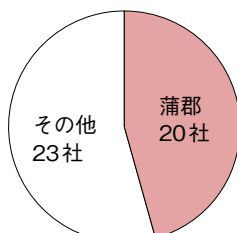
製造品出荷額（合成繊維ロープ・コード・トワイン）

百万円（単位）



出荷額(百万円)	8,597	2,943	2,167	1,805	1,173
全国占有率(%)	37.2	12.7	9.4	7.8	5.1

日本繊維ロープ工業組合加盟社数内訳



全国43社中、
20社が蒲郡!!

進化

新しいロープの研究も進み、土に戻るロープや、ワイヤーロープに匹敵する超高強度ロープなど、新製品の開発を行っています。

また、新しい技術として、光るロープ「ヒカロープ」が開発され、漁を行う際の集魚灯として、店舗や舞台装飾のディスプレイとして、また、蒲郡駅やラグーナ蒲郡におけるイルミネーションとして利用されています。日本のロープ発祥の地・蒲郡において、さらにロープは進化しています。

に加盟している企業43社のうち、20社が蒲郡の企業です。

（出典：平成22年工業統計調査）